

2012年2月24日

倉敷市長 伊東香織 様

日本共産党児島中央支部
支部長 田中政利
日本共産党稗田支部
支部長 小山和正
倉敷市議会議員 末田正彦

児島・緑ヶ丘小学校区の台風災害対策に関する要望書

昨年9月に発生した台風12号によって、児島地区は、2004年の台風16号・23号に続く大きな被害を被りました。前回の台風災害以降、県や市によって様々な対策がとられてきましたが、児島小学校区と緑ヶ丘小学校区に限っていえば、前回大きな被害を被ったにもかかわらず、この7年間ほとんど防災対策がすすんでいないといっても過言ではありません。前回に続いて今回も同様の被害を被った方が相当数にのぼりますが、これはもはや「人災」だと認識する必要があります。

真に有効な防災対策を導き出すにあたっては、その災害を引き起こした原因についての分析が不可欠です。昨年またこの地域で広範な浸水被害が生じた要因については、以下のことが考えられます。(1)満潮で潮が高く、小田川、下村川の排水の障害となった。潮自体年々高くなっている。(2)かつてない局地的集中豪雨。(3)開発によって山が削られ、水田や畑や調整池が減少することによって、保水機能が減退している。(4)以上によって、大量の雨水が、短時間に一気に小田川、下村川に流れ込んだことによって、川の通水能力を超えあふれ出した。

局地的集中豪雨や開発による保水能力の減退は今後ますます悪化する可能性があります。

自然現象については一地域や行政の努力では変えようのない問題ですが、行政と地域住民の努力によって新たな保水能力や通水能力を創り出すことは可能です。

いずれにしても、このまま何の対策もとられないならば、最悪の場合、今年にもまた同様の災害が生じる可能性があるという認識をもって、対策を急ぐ必要があります。

わが党は、昨年11月にこの問題で児島支所の関係幹部職員との懇談会をもち、12月には現地調査（ウォッチング）をおこない、関係住民のみなさんの声を直接聞かせていただきました。

以上をふまえ、以下の点について要望するものです。早急に検討し、県政に関わるものは県に強く要望し、善処されますようお願いいたします。

記

有効な対策としては、①失われた山や水田・畑、貯水池に代わる保水機能を新たにつくりだす対策、と、②水を海に抜くための新たな通路の確保、川の断面（通水面積）を増やしたり、水路の詰まりを掃除する対策、の二つがあると考えます。

1. 貯水タンクを地下に設置し、パイプで直接海に流す対策を検討すること。
2. 今後の開発にあたって、貯水池の設置やその能力について、業者に対する市の指導を強化すること。
3. 新たな調整池を確保する対策を検討すること。
4. 雨水浸透ます、雨水貯留槽の設置を促進すること。そのための補助制度の周知徹底をはかるとともに、拡充すること。 ※、2007年9月議会 末田正彦市議の質問で提起している。
5. 応急措置として、柳田あたりの堤をかさ上げすること。
6. 極端に曲がっている堀江染工南の水門について、対策を検討すること。
7. 今では殆ど利用者がいない堀江染工と県道を結ぶ橋（3本あるうちの真ん中）が邪魔をして

水があふれたという指摘があります。関係方面と協議して、撤去することも検討すること。

8. 大正橋（歩道、県がつくって市が管理）の断面（眼鏡状）が流れを阻害している可能性が指摘されています。断面確保の対策を検討すること。
9. 大池から小田川に下る、①稗田 2221 番地・片山一夫氏宅付近の用水、②佐古団地入り口・山本商店東の用水の増水時対策のための改修・改善をおこなうこと。
10. 稗田駐在所、庄司精肉店の間の用水路の増水時対策をおこなうこと。
11. その他（口頭で）。

以上